

## 福井県内におけるワタカの捕獲記録

保科 英人\*

Record of *Ischikauia steenackeri* (Sauvage) (Cyprinidae) in Fukui Pref., Honshu, Japan

Hideto HOSHINA\*

### 要 旨

2005年に、県内で採集事例の少ないワタカを福井市内の池で捕獲した。だが、今回記録されたワタカは、自然分布ではないことは明らかである。おそらく遊漁対象として、放流されたものであろう。意図的であるかどうかを問わず、他地域からの淡水魚の持ち込みは厳に慎むべきである。

キーワード：淡水魚，移入魚，コイ科，ワタカ，福井県

### 1. 本 文

ワタカは、コイ科に属する淡水魚で、目が大きいのが特徴的である。加藤 (1998) によると、ワタカは、三方湖で1匹捕獲されたことがあるようだ。著者は現物の確認はしていないが、同文献によれば、この捕獲記録は新聞に掲載されたようなので、トピックになる程度には県内では珍しい淡水魚だったと言うことであろうか。また、加藤 (1998) は、かつてはワタカの生息が確認されていた九頭竜川水系日野川で、90年代には見られなくなったことを指摘し、本種が河川では定着しえなかったと推測している。川那部ら編 (1989) でも、ワタカの生息環境は、止水か流れが弱い下流域が主であると述べており、一般河川では生息しにくい淡水魚であることがうかがえる。

ただし、ワタカの福井県内における記録が少ないからと言って、本種の保護が必要と言うことはならない。実は、本種は琵琶湖淀川水系の固有種であり (宮地ら, 1976など)、県内のワタカは、明らかに人為的運搬手段による移入魚だからである。

2005年8月30日に、著者は、福井市上一光町の山中にある池で、エサとしてミミズを用い、釣りによって、ワタカを捕獲した (写真1および2)。前述の通り県内におけるワタカの捕獲記録は少ないので、本稿

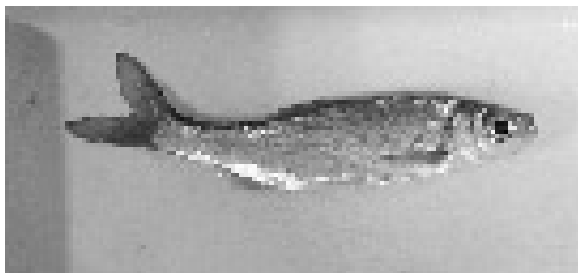


写真1 ワタカ

で記録しておく。なお、この池では、ワタカの個体数はかなり多いと思われ、釣りは「入れ食い」状態で、捕獲は極めて容易であった。

上一光町に生息するワタカが移入魚であることは疑いの余地がないが、いかなる理由で、山中にある池に放流されたのか。この池の周辺には、現在は無人と思われる別荘らしき建物があった。また、捕獲当時は、池の近くに「別荘分譲中」なる看板が設置されていたが、この時点で営業活動していたとは到底考えられず、看板は単に放置されていたであろう。となれば、導き出される推測は、これらの住宅の関係者の何者かが意図的に、何年か前に放流したということにしか行き着かない。なお、この池には、ブラックバスやブルーギルは生息していないようである。だとすれば、釣り目的で放流したブラックバスやブルーギルの稚魚にワタカが混じって定着した可能性は低そうだ。前者1つないしは2つの稚魚に混入する程度の数では、定着するとは思えず、またブラックバスやブルーギルと共に放流されて、ワタカのみが生き残ることも考えにくいからだ。ちなみに、ワタカはフィッシング対象としてはお世辞にもメジャーとは言えない。だとすれば、通



写真2 福井市上一光町の池

\*福井大学教育地域科学部地域環境講座 〒910-8507 福井市文京 3-9-1

\*Department of Regional Environment, Faculty of Education & Regional Studies, Fukui University, Fukui City, 910-8507 Japan

好み(?)の釣り人が、本種をわざわざ選んで放流したのであろうか。宮地ら(1976)は「ワタカは食用としては、慣れると悪くない」と述べているが、川那部ら編(1989)では「概してまずい」と一刀両断しており、両者の間にはやや記述に食い違いがあるが、いずれにせよ食用魚として重宝されるものではなからう。ならば、純粋な遊漁対象として放されたのであろうか。いずれにせよ、これ以上無責任な憶測を重ねるのは、やめておこう。

なお、捕獲したワタカのうち、2匹は現在も著者の研究室で飼育している。益田ら編(1984)および益田・小林(1994)によると、ワタカの食性は水草を中心とした雑食とあり、どちらかと言えば植物食に偏った雑食であるらしい。だが、著者は本種をミミズで釣ったこともあり、大型肉食魚用のドライフードで飼育している。

最後に、移入行為について述べておきたい。ワタカは、国内淡水魚であるが、福井県に自然分布する生物ではない。本稿のキーワードでは誤解を避けるために「移入魚」と言う単語を使ったが、県内にもともと生息していない魚類である以上、ワタカは生物学上、福井県における押しも押されぬ「外来種」であることを明記しておく。Pimentel(2002)を引用するまでもなく、外来種問題は、最初から外来種を持ち込ませないことが最良の解決策である。

## 2. 謝 辞

本稿を執筆するにあたり、貴重な助言をいただいた丸岡高校城東分校の松田隆喜教諭に厚く御礼申し上げる。

## 参考文献

- 加藤文男, 1998, 福井県の淡水魚. みどりのデータバンク付属資料第2回・福井県の陸水生物, 福井県県民生活部自然保護課, 福井, 125-203.
- 川那部浩哉・水野信彦・細谷和海編(監修), 1989, 日本の淡水魚. 山と溪谷社, 東京, 719p.
- 益田一・尼岡邦夫・荒賀忠一・上野輝彌・吉野哲夫編, 1984, 日本産魚類大図鑑. 東海大学出版会, 東京, 448p., 370 pl.
- 益田一・小林安雅, 1994, 日本産魚類生態大図鑑. 東海大学出版会, 東京, 465p.
- 宮地傳三郎・川那部浩哉・水野信彦, 1976, 原色日本淡水魚類図鑑(全改訂新版). 保育社, 大阪, 462p.
- Pimentel, D., 2002, Chapter, I. Introduction: Non-native species in the world: Biological invasions. CRC Press, Boca Raton, 3-8.

## Record of *Ischikauia steenackeri* (Sauvage) (Cyprinidae) in Fukui Pref., Honshu, Japan

Hideto HOSHINA

### Abstract

In 2005, a fresh water fish, *Ischikauia steenackeri* (Sauvage) belonging to the family Cyprinidae, which is rare species in Fukui Pref., was collected from Fukui City. However, there is little doubt that *I. steenackeri* is an invader in Fukui Pref. We should not introduce non-native fish into ponds regardless of intentional or accidental release.

**Key Words** : fresh water fish, non-native species, *Ischikauia steenackeri* (Sauvage), Cyprinidae, Fukui Pref.